

年 組 番 氏名

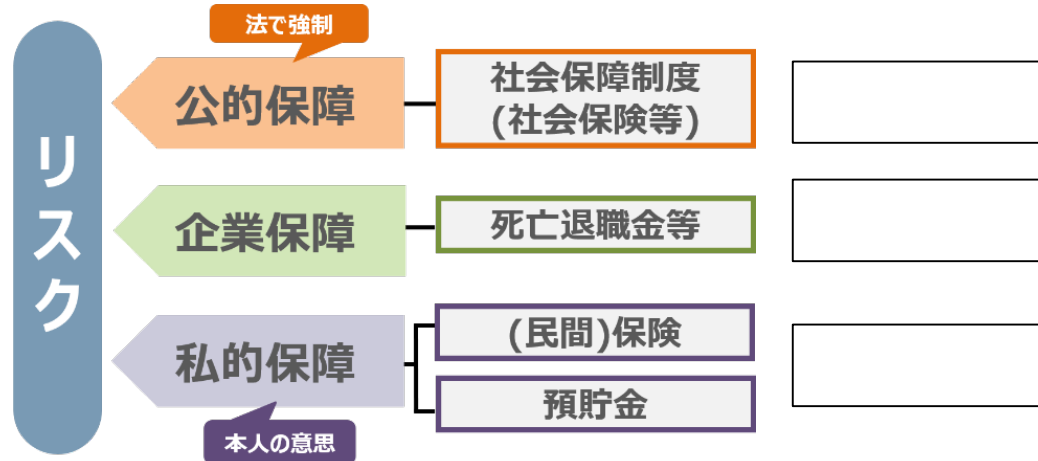
I. リスクへの備え

[1] リスクとは何か

リスクとは、 で、起きるとお金がかかること。

[2] リスクに備える3つの保障

※保障：もしものときに生活を守るもの



[3] 社会保障制度の概要

社会保険

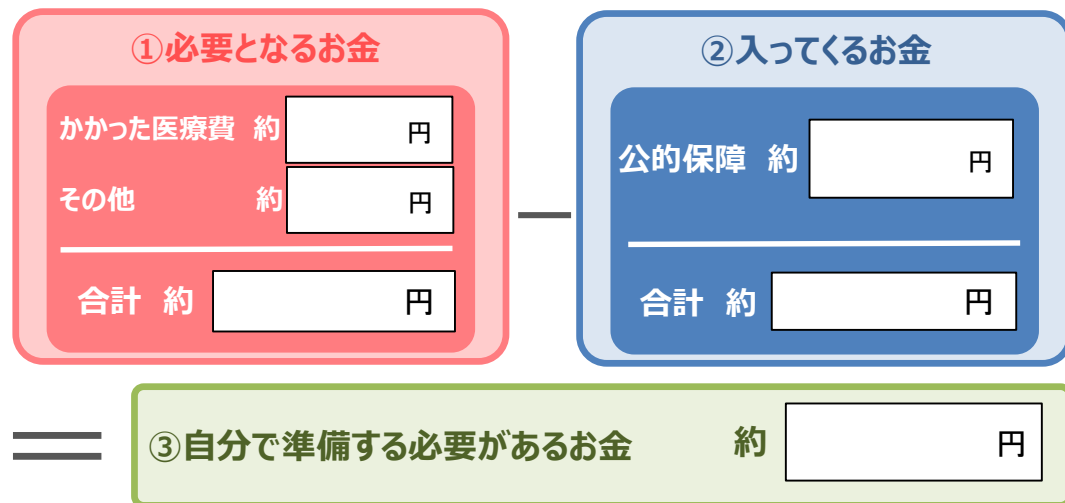
制度	主な保障の内容
1. 公的医療保険	<input type="text"/> や <input type="text"/> にかかる治療費
2. 公的年金保険	老後 <input type="text"/> 状態時 } の生活費など
3. 公的介護保険	<input type="text"/> 費用 (訪問介護など)
4. 労働者災害補償保険	<input type="text"/> のケガ等の治療費
5. 雇用保険	<input type="text"/> 時の生活費

II. もしもリスクが起きてしまったら...

[1] 事例① 足の事例で骨折したら

Aさん (23歳) は、友人とスノーボードをしているときに、足をひねる状態で転倒しました。レントゲン検査の結果、ねじったように骨折しており、翌日手術を行いました。そして22日目には無事退院をすることができました。このとき、医療費などはいくらかかったでしょうか。

どんなことにお金がかかるか考えてみよう



[2] 公的医療保険

年齢による自己負担の割合



医療費の自己負担額が高額な場合は「高額療養費制度」が活用できる。

[3] 事例② もしも、亡くなってしまったら

Bさんは今年45歳。妻(42歳)はパート勤務(年収130万円)、長女(10歳)・長男(8歳)がいます。現在の生活費は月約29万円、家は持家です。

(1)「何」に「いくら」かかるか考えてみよう

(2)必要なお金はどうやって準備するか考えてみよう

①必要となるお金

生活費	約	<input type="text"/>	円
子どもの教育費	約	<input type="text"/>	円
その他	約	<input type="text"/>	円
合計	約	<input type="text"/>	円

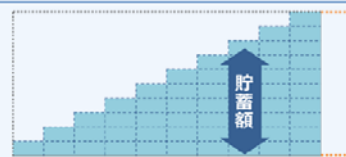

②入ってくるお金

公的保障	約	<input type="text"/>	円
企業保障	約	<input type="text"/>	円
妻の収入	約	<input type="text"/>	円
合計	約	<input type="text"/>	円

③自分で準備する必要があるお金 約 円

Ⅲ. 自分で準備する「私的保障」

[1] 預貯金と保険

	預貯金	保険
イメージ		
	貯蓄額は毎年100万円(総額1,000万円)	保険料は毎年約3万円(総額約30万円)
特徴	<input type="text"/> 目的のために貯める	<input type="text"/> の損失に備える
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ●貯めたお金は自由に使うことができる ●途中での引き出しや貯めるペースが自由 ●預けた金額に応じて利子がつく 	<ul style="list-style-type: none"> ●途中で万一のことがあった場合、あらかじめ <input type="text"/> 金額を受け取ることができる
デメリット	●途中で万一のことがあった場合などに、 <input type="text"/> 金額が貯まっているとは限らない	●決められた金額を保険料として支払う必要がある(保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある)

[2] 生命保険と損害保険

	生命保険	損害保険
対象	<input type="text"/>	<input type="text"/>
受取額	あらかじめ約束した金額(定額保障)	事故により発生した損害額(実損填補) ^{てんぽ}
備えられるリスク	<ul style="list-style-type: none"> ●万一(死亡) ●老後 ●病気・ケガ ●介護 など 	<ul style="list-style-type: none"> ●交通事故 ●火事 ●台風や地震 など

Ⅳ. まとめ

- ①リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- ② と企業保障で不足する部分を で補う。
- ③ と にはそれぞれ特徴があり、使い分ける必要がある。
- ④家族構成や年齢などによって、身の回りにあるリスクは異なります。状況に応じて を考えよう。

MEMO
